（日本銀行仮訳）

金融安定理事会による報告書

「クロスボーダー送金の目標達成に向けた実装方法の策定：中間報告書」

エグゼクティブ・サマリー

クロスボーダー送金の改善に向けた G20 ロードマップ[1]の基礎となる一歩は、クロスボーダー送金が直面する課題（コスト、スピード、透明性、アクセス）に直接関連するグローバルレベルの定量的な目標を設定することであった。定量的な目標は、ロードマップの野心を示し、説明責任を生む。もっとも、現状、包括的なデータソースが存在しないため、目標に向けた進捗状況の計測は簡単ではない。目標に向けた進捗状況の計測にかかる作業を執り行うべく、FSB は、KPI（重要業績評価指標）の具体的な提案の策定と、KPI の算出および今後の目標に向けた進捗のモニタリングに資する既存もしくは潜在的なデータソースを特定するため、FSB のメンバー機関の専門家からなるワーキンググループを設立した。本中間報告書は、FSB にとって、ワーキンググループの暫定的な見解と提言を、市中に共有しフィードバックを得るための機会であり、そうしたフィードバックは、先々採用される定量的な目標達成に向けた実装方法の最終化にも資する。

目標が設定されている 3 つの決済セグメント（ホールセール、リテール、レミッタンス）は、エンドユーザー、インフラ、プロセス、決済メカニズムが大きく異なり、その差異は、ワーキンググループが提案する KPI と利用可能なデータベースに影響を及ぼす。

ホールセールのセグメントについて、ワーキンググループは、セグメント横断の KPI を提案し、スピードおよびアクセスをモニタリングするデータソースとして、民間ネットワークプロバイダを最も有力とみなしている。ワーキンググループは、透明性をモニタリングするために、サーベイや代理変数の活用を検討している。

リテールのセグメントについて、ワーキンググループは、同セグメントの多様なユースケース（例：企業間＜B2B＞、企業と個人間＜B2P、P2B＞、レミッタンスを除く個人間＜P2P＞）ごとに異なる KPI を提案しており、これらは潜在的にはセグメント横断の KPI に集計されうる。ユースケースごとに異なる KPI を提案することによって、KPI の代表性が高まり、4 つの課題および目標達成に向けた進捗状況が、ユースケース間でどのように異なるかより理解することが可能となる。リテールセグメントにおけるエンドユーザーや決済サービス事業者（PSP）はとてつもなく多様であるため、包括的なデータ収集は実現できない。その代わりに、ワーキンググループは、例えば民間のデータ収集会社[2]から、代表的なサンプルを収集する可能性を検討している。

---

[1] 金融安定理事会「クロスボーダー送金の改善に向けたロードマップ」（2020 年 10 月）

[2] 本報告書では、「データ収集会社」という用語は、1 つ以上のソースからデータを収集し、データを標準化または補強し、使用可能な形式で結果をリパッケージ化する企業を指す。

最後に、レミッタンスのセグメントについては、当該セグメントにおける状況を改善するという公的セクターの長年の目標が、複数の高品質なデータベースの確立、特に注目すべきものとして世界銀行の Remittance Prices Worldwide (RPW) database（とりわけコストの計測、また、レミッタンスフローのスピード、アクセス、透明性の計測にも有用）、および、Global Findex database（とりわけアクセスと金融包摂の計測に有用）の確立につながった。ワーキンググループは、セグメント横断の KPI を計算するのに、これらおよび類似する公的セクターのデータベースを活用することを提案している。

目標はグローバルレベルで設定され、モニタリングがなされる。加えて、進捗がみられるところおよび課題が残るところを評価するため、少なくとも何らかの形式での非集計データ（例えば、地域別、法域別、支払手段別、決済サービス事業者の業態別）の収集と公表についても、可能な限り実施されることになる。

ワーキンググループの作業は著しい進展を遂げてきたが、データギャップは残存しており、KPI の計測に向けた提案事項は、データの潜在的な提供者との更なる議論を通じて運用可能なものとする必要がある。例えば、殆どの PSP やインフラは、目標で求められている、正確なエンド・ツー・エンド（支払人から受取人）でみたクロスボーダー送金の正確なスピードまたはコストを算出するために必要な送金チェーンの全体像を把握していない。そのうえ、送金経路について、データの利用可能性の差異は現状不明瞭であり、潜在的に偏った状況認識につながりうる[3]。次のステップの一環として、ワーキンググループは、目標横断的に残存するデータギャップを特定し、そのギャップを埋めるべく、既存のデータベースを拡張する、または、新たなデータベースを作成するための具体的な戦略と優先取組事項を明確化する。

ロードマップに広く当てはまるとおり、強いコミットメントと協調が成功に不可欠である。民間セクターの関与は、目標に向けた進捗のモニタリングをサポートする鍵となる。FSB は、本中間報告書で示す暫定的な提案について、市中からのフィードバックを募集する。とりわけ、KPI 計測の実装方法の最終化に資する以下の質問へのフィードバックを歓迎する。

1. FSB は、ロードマップの目標に向けた進捗を効率的にモニタリングするための適切な潜在的データソースを特定しているか。FSB が考慮すべき追加的、または代替的な公的・民間のデータソースはあるか。また、それはどの KPI を対象としているか。
2. FSB は、関連する目標に密接かつ有意義に結び付くよう、適切に KPI を定義しているか。過度な負担になることなく、目標に向けた進捗について十分に代表性のある計測値を提供するためには、KPI の計算に当たってどのような追加的な考慮

[3] 本報告書では、送金経路は、特定の送金国から特定の受取国の組み合わせである各国間の送金経路を指す。

事項に留意すべきか。

3. FSB は、いくつかの目標に向けた進捗のモニタリングのために、代理変数の使用を検討している。これらの提案された代理変数は適切か。FSB が検討すべき、十分に代表的かつモニタリングを簡素化しうる追加的または代替的な代理変数はあるか。

フィードバックは、2022 年 7 月 31 日までに fsb@fsb.org へ「クロスボーダー送金の目標に向けた進捗のモニタリング」の表題を付して送付することを求める。寄せられた回答は、今後の作業において、FSB のワーキンググループへの情報提供に資するものであり、対外公表されない。

具体的には、寄せられた回答は、G20 および市中に向けた 2022 年 10 月の FSB 報告書に対して実装方法と KPI の更なる詳細をインプットするものとして役立つ。KPI に基づくクロスボーダー送金の現状のパフォーマンスの推計値を策定するには、信頼に足る推計値の策定に向けた潜在的なデータ提供者との協働を踏まえると、数か月程度の追加的な期間を要する見込みであり、利用可能となり次第、公表する。

以　上